

2015年1月5日

三菱樹脂社長 姥貝 卓美 2015年 年頭挨拶（要旨）

三菱樹脂株式会社

昨年は消費税増税の反動減が懸念される中で始まり、その後需要の戻りは緩やかで景気の足踏みが懸念され、10月末の日銀の追加金融緩和、消費税引き上げの先送りと続き、第三の矢である成長戦略の実行力が待ったなしで問われる段階となった。また、円安の進行、原油価格の急落や米国シェールガス生産の動向、中国の景気減速とNew Normalへの経済政策運営転換など、不確実な要素が山積している状況にある。今年も日本経済や世界経済には不確定なことが沢山あるが、事業を取り巻く環境は何時いかなる時代でも常に変化している。変化を前向きに受け止めて、私たちの力で未来に向かって自らの足でしっかりと歩んでいかなければならない。

三菱樹脂グループの食品向け高機能フィルム、農業フィルムや土木建築資材は昨年苦戦した一方で、電子産業フィルム、アルミナ繊維などが全社の数値を押し上げてきている。国内外で苦戦している事業部やグループ会社もあるが、それぞれが期待されたスコアを達成して初めてありたい姿に近づいていく訳であり、課題に正面から向き合い、コストダウンや増販努力を通して、予算を達成していくことが必要だ。私たちはそれぞれの事業を<より強く、より大きくする>為に日々努力をしている。仕事や事業に対する想いを実現するために辛いこともあるが、言い訳や弱音を吐かずに頑張っていこう。

昨年、新たな拠点や会社設立の為に投資を決定し、今年、アルミナ繊維の増設ラインやインドネシアの透湿フィルムライン、無錫の三菱樹脂光学薄膜などの幾つかの増設起業や新会社が事業活動や生産活動を開始する。また、中国のリスク管理機能を担う上海の管理有限公司も更に活動を本格化する。これらの事業がもう一段スケールの大きな三菱樹脂グループとなる力となってくれることを新年に期待したい。

事業は立ち上げる前の事前準備が極めて大切であり、工場が完成してから仕事に取り組むのでは成功は望めない。地道な泥臭い位のプレマーケティングの努力が必要であり、スムーズな工場立ち上げは確実な事前準備と確認作業があって初めて実現可能になる。新しい事業が成功するかどうかは、トラックの第一コーナーを上手にキッチリと走行しているかどうかで大半が決まってしまう。2015年に立ち上がる事業は営業・技術・製造の全メンバーが想いを新たに真摯に立ち上げの準備活動に取り組んで欲しい。

今年の干支は「乙未」。紆余曲折があっても改革や創造に向って公明正大に前進していくという意味がある。まさに乗り越えていく課題を正攻法で、正面から受け止めて解決し、新しい改革やビジネスに向かって前進していくことが求められる。<コア事業はもっと大きく、競争力のある事業はもっと強くする>ために積極的に経営資源を投入し、三菱樹脂グループをもっと力強く存在感のある、そして魅力的なグループにしていく為、皆さんと一緒に挑戦していこう。

以上

本件に関するお問合せ先 (株) 三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話：03-6748-7140
